

A.3 編著者紹介



Julia Laub
(ユリア・ラウブ)

1980年、バイエルン州生まれ。2003年、シュヴェービッシュ・グミュント・デザイン大学でコミュニケーションデザインを学ぶ。バーゼルのHGKに留学。2007年、修士論文『ジェネラティブシステム』(Benedikt Großと共著)。2008年から、ブックデザイン、コーポレートデザイン、ジェネラティブデザインを専門とするグラフィックデザイナーとして独立。2010年、デザインエージェンシーonformative(ジェネラティブデザインのための事務所)をベルリンでCedric Kieferとともに設立。多くの大学でジェネラティブデザインの講師を務める。

Claudius Lazzeroni
(クラウディウス・ラッツェローニ)

1965年、バイエルン州生まれ。1984年、写真家を目指しRaoul Manuel Schnellに師事。1987年、ボストンのマサチューセッツ芸術大学のチューター。1992年、ベルリンのBILDOアカデミーでメディアデザインの学位取得。1996年までPixelparkのクリエイティブディレクター。2001年までベルリンのデザインエージェンシーIM STALLの創設者、ディレクター、クリエイティブディレクター。1999年から、エッセンのフォルクヴァング芸術大学でインターフェースデザインの教授。2005年から、「solographs」を探究、開発、構築。2007年から、フィジカルコンピューティングを含む学科へと拡張。

本書の成り立ち

それは、ピレネー山脈沿いにある小高い丘で始まりました。人里離れた場所を求めていた4人の著者は、みんなの能力を合わせて共通のアイデアにまとめようとしていました。Benedikt GroßとJulia Laubは、ジェネラティブデザインについて書いた修士論文をリュックに入れてきました。Hartmut Bohnackerは、学生にアルゴリズムを理解してもらう豊富な経験を持ち、Claudius Lazzeroniは、デザインの基礎についての幅広い知識を共有し、さらに私たちの舌を十分満足させてくれました。数週間かけて本のビジョンを固めた後は、ともに作業するために別々の道に向かいました。それ以来、ほとんどずっと離れたところにいました。インターネットや、時には集中的なワークショップでの打ち合わせをもとに、絶え間ない反復的な段階を経て、テキスト、プログラム、デザインがすべて出来上がって整理を終えたときには、14ヶ月の月日が経っていました。KarinとBertram Schmidt-Friderichsという情熱的な発行人と組んでいなかったら、私たちはまだ書き続けていたかもしれません……。

Benedikt Groß
(ベネディクト・グロース)

1980年、バーデン＝ヴュルテンベルク州生まれ。2002年、地理学とコンピュータサイエンスを学ぶ。これらの分野の研究を離れ、ビジュアルデザインに興味をもつ。2003年、シュヴェービッシュ・グミュント・デザイン大学で情報とメディアを研究。2005年、フランクフルトのMesoでインターンシップ。2007年、修士論文『ジェネラティブシステム』(Julia Laubと共著)。2007-2009年、シュヴェービッシュ・グミュント・デザイン大学インタラクティブデザイン学科で助手と講師を務める。2009-2011年、シュツットガルトのIntuity Media LabでIX(インタラクティブ) / UXデザイナー。2011年から、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートのデザインインタラクティブ修士課程の大学院生。

Hartmut Bohnacker
(ハルムート・ボーンッカー)

1972年、バーデン＝ヴュルテンベルク州生まれ。数学の研究と経済学の学位から離れて、シュヴェービッシュ・グミュント・デザイン大学でコミュニケーションデザインを学ぶ。卒業後の2002年、シュツットガルトでフリーのデザイナー。専門は、インターフェースやインタラクティブデザイン分野のプロジェクトのコンセプト構築、デザイン、プロトタイプ実装。2002年の終わりからは、デジタルメディアの教員。2009年から、シュヴェービッシュ・グミュント・デザイン大学でインタラクティブデザインの教授。

A.4 謝辞

- Project Selectionに掲載させていただいた、すべてのアーティスト、デザイナー、建築家。
- Cedric Kiefer。問題解決、プログラミング、相談、イラストレーション、長い作業の夜の間の気持ちのこもった精神的援助。
- Intuity Media Lab(シュツットガルト)。コンサルタント、サポート、オフィス利用。
- 47 Nord(シュツットガルト)のDany SchmidとStefan Landsbek。SVNとWikiのホスティング。オフィス利用。Javaヘルプ(ASE書き出し)、Webサイトwww.generative-gestaltung.deの実現。
- Christopher Warnow。プログラミングとサポート。
- Matthias Wagler。Processingライブラリの手助けと相談。
- Joreg, Sebastian Gregorと、彼らのアシスタントであるRoman Grasy, Igne Degutyte, Anton Mezhiborskiy, Anna-Luise Lorenzら。すべてのスケッチをwwwパッチに移植。
- Sojamo。controlP5の改変。
- Casey Reas, Ben Fry。Processingのバグの迅速な解消。Caseyによる英語版の初期サポートと参考文献の支援。
- Processingコミュニティ。フォーラムでの手助け。
- FreeSans.ttf GNU Project, Mårten Nettelbladt(MISO), FontShop。フォント提供。
- Exyzt(パリ)のFrançois Wunschel。オフィス利用。
- Frank Weiprecht。InDesignスクリプトの手助け。
- Andres Colubri。ProTabletライブラリ。
- Pau Domingo, Markus Schattmaier, Franz Stämmele, Andrea von Danwitz, Jana-Lina Berkenbusch, Ben Reubold, Victor Juarez Hernandez。イラストレーション。
- Tom Ziora, Stefan Eigner。写真の提供。
- Vanessa Schomakers。プロジェクトセレクションのテキスト。
- Nicole Schwarz, Linda Hintz。レイアウトとタイポグラフィの助言。
- Florian Stötzler。フィードバックとアイデア。
- Sebastian Oschatz。コメントと引用文。
- Kristijan Kolak, Marc Guntow。シネマ・レイトレーシングの手助け。
- Hermann Schmidt Mainz publishing houseのみなさん(特にBrigitte Raab)。
- Marie Frohling。英語翻訳と多大な協力。
- Amos Confer。英語翻訳のレビュー。

最後に、周囲の方々に心より感謝します。みなさんの協力がなければ本書が完成することはありませんでした。

- Hartmut Bohnackerから、ほとんど時間がとれなかったことを理解してくれた友人、同僚、親類のみなさんへ。
- Benedikt Großから、Sabrina、両親と兄弟、Fischer家のみなさん、IG基礎コースとともに時間を過ごしたMichael Götteへ。
- Julia Laubから、Cedric、Johannes、家族、祖父母、励ましと理解で私を支えてくれたすべてのみなさんへ。
- Claudius Lazzeroniから、Hu Hohn、Anna Heine、Thomas Born、両親、元気づけて協力してくれた妻のDaniela von Heylへ。